

風海仲間と帆走

国際交流日本ジュニアヨットクラブ競技会2015（日本ジュニアヨットクラブ連盟など主催）は31日、宮古市神林のリアスハーバーで3日間の日程が始まった。宮古港開港400周年記念事業の一環で、ニュージーランド、オーストラリア、香港から選手を招待。全国16クラブのジュニアセーラーを含む88人が、日ごろ鍛えた帆走技術を競い、交流の輪を広げる。

国際交流ジュニアヨット



同日は開会式が行われ、同連盟の石原伸晃会

長と山本正徳市長のあいさつに続き、宮古ジュニアセーリングクラブの山力強く宣誓した。下和磨君（宮古西中3年）、岩花岳君（千徳小6年）、沼崎克海君（山行われ、選手たちはOP級初級者、同上級者、口小6年）が復興した美しい宮古の海で、多くアから参加したイサー20級、F1級の5クラブの支援に感謝しながら世・マコーライ君14はスで行われる。

国境超え、宮古で競う

「宮古の海はきれいで、素晴らしい。風にてこずったが2本ともトップ。本番も大丈夫」と自信をのぞかせ、佐香将太君（宮古高2年）は「いつ



オレンジ色のマークに向かうニュージーランドの選手（右）。レベルが高い海外招待選手たちと技を競った

「元気な姿うれしい」

NZのコーチ・イネスさん

同校ヨット部コーチも務めたイネスさん。帰国後も、宮古とニュージーランドの子どもたちによるヨット交流を数回行うなど、競技を通じた友好活動に尽力した。東日本大震災発生の3日前にも宮古市を訪れていたイネスさんは「震災

震災後初の宮古再訪



2003年に興教委の外国青年招致事業で、宮古高講師を1年間務めたスチュワート・イネスさん（34）ニュージーランド・オークランド市在住が今回、同国チームのコーチとして参加している。

スチュワート・イネスさん

と宮古の体験を共有していきなさい」と笑顔で語った。



巧みに帆を操り海上を疾走するOP級上級者の選手たち



元気に選手宣誓する宮古ジュニアセーリングクラブの（左から）山下和磨君、岩花岳君、沼崎克海君

ネパール大地震義援金 7月27～31日

▽5千円 金石市、匿名▽3千円 盛岡市、匿名
◇累計81件 162万9929円
義援金は県ユニセフ協会を通して被災地に届けます。